



加賀市長からのメッセージ 第035号 6月27日配信

6月23日付の「北國新聞（朝刊）」社説にて、先週6月16日（日本時間）の夜に締結した、加賀市とJALエンジニアリング社、そして米国のWisk Aero社との「空飛ぶクルマ」実装に向けた基本合意の件について取り上げていただきました。

記事ではこの取り組みを加賀市の「国家戦略特区のシンボル」と位置づけ、「空飛ぶクルマ」すなわちエアモビリティ産業の現状や期待を示した上で、加賀市が昨年結成した次世代コンソーシアムの活動（「空への産業集積」）の部分にも触れられていました。

他の自治体でもドローンやエアモビリティなどの航空事業の実証実験や企業誘致を進める動きはありますが、その中でも大手航空会社や大学等の研究機関を数多く巻き込むなど、客観的に加賀市が一步リードしているとのことで、市が本気で「空の産業」を新産業の1つとして戦略的に進めていることが、客観性を持って1つお示してきたのではないかと思います。

あえて私から言葉を添えさせていただければ、ここまで歩みが進んでいる背景として、市職員の頑張りも伝わればと思うばかりです。

さて、梅雨の過ごしにくい時期が続いております。記録的な高温の日もあれば、たくさんの降雨が市内に注ぐ日もございます。市民の皆様におかれましては、健康管理に十分ご留意されお過ごしいただきたいと思います。

また、降雨災害などにも十分な警戒を続けてまいります。

（令和7年6月27日号）

加賀市長 宮元 陸